

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	02200000	産業振興部 農林課	
大事業	A1	6つのまちづくり宣言	健康増進	款項目	05	農林業費	02	林業費	01	林業振興費
		目指す姿	生涯健康で、元気に生きる！	K P I	健康寿命の延伸 健康増進に積極的に取り組んでいる人の割合				目標値	(男性)81.00歳(女性)86.00歳 70.0%
中事業	01	主要な取り組み	まず一歩、健康はウォーキングから							
小事業	09	みのかも健康の森活用事業		目標年度	令和6年度					



イン  
プ  
ット

事業実施の 背景にある課題	みのかも健康の森は、治山事業の一環として岐阜県と共同で整備し平成7年度に開園した。森林が持つ優れた自然環境を保全するとともに、市民の保健休養、学習の場として広く市民の利用に供することと環境保全の啓発を目的とした施設である。当施設の活用が進まなければ森林が荒廃していく恐れがある。加えて、開園してから約30年以上が経過しており、階段等の施設の改修や器具等の修繕が必要である。					
対 象	子育て世代、高齢者、軽登山客等					
目 的	健全な施設運営を図ることで森林の保健・保全機能により自然保護意識の高揚を目指す。					
概 要	みのかも健康の森の管理運営を指定管理者へ委託し健全で安全な施設運営を推進 ・老朽化した施設の整備 ・「木育ひろば」を開設し木のおもちゃで遊べるスペースの開放、管理棟内の改修 ・整備された森林空間を活用し「健康」に焦点をおいた事業を展開 ・雨天時の来園者の確保を行うための「木工体験」等も実施					
事業費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	22,217	32,773	25,853	33,546	33,234
	決算額	21,539	31,805	24,550	31,973	30,154
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		300 / 0				



実 績	実 績	・公園の運営（指定管理） ・時計台修繕 ・パーゴラ設置
	効 果	指定管理者と共同でイベントを実施し入場者増加につなげることができた。 優先的に修繕が必要な個所を指定管理者と確認し、補助金を利用するなどの整備を実施することができた。



アウト プ ット	活 動 指 標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	健康の森 施設整備数（遊具含む）	目標値				1	1
		実績値				2	2



アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	健康の森入場者数（人）	目標値	80,000	81,000	81,500	73,000	73,000
		実績値	41,000	49,000	67,000	68,310	79,043



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	経年劣化の激しかった TENT を撤去し、県補助金を利用したパーゴラを整備することができた。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	周辺里山で実施している企業の森活動の活動企業数が増加し、活動回数自体も増え、関連企業活動の拠点となっていることから、名古屋圏やこれまで訪問のなかった新規入場者を獲得できた。 これまで個々に利用のあったトレラン愛好家が健康の森全体をフィールドとしたトレラン大会を実施し、選手やその家族等の入場もあった。 また、マルシェを複数回実施したことでさらなる入場者の増加があった。
	実績からR07年度の 事業の方向性	指定管理者と連携しながら入場者増加につながる事業を実施してくとともに、施設に必要な修繕を優先順位をつけながら効果的に実施することで森林公園として健全な施設運営を行う。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	02200000	産業振興部 農林課		
大事業	D1	6 つのまちづくり宣言	産業振興	款項目	05	農林業費	02	林業費	01	林業振興費	
		目指す姿	活力と ” 豊かさ ” あふれるまち！	K P I	1人当たりの市内総生産額 産業・観光振興に積極的に取り組んでいると感じる人の割合				目標値	4,100千円 50.0%	
中事業	03	主要な取り組み	まもる農業、残す里山								
小事業	01	有害鳥獣捕獲対策事業		目標年度	令和6年度						

イン  
プ  
ット

事業実施の 背景にある課題	野生鳥獣が住宅地付近の荒れた里山や竹林に定着し、稲、野菜、豆類等の農作の被害だけでなく、水路や農地法面なども荒らされるなど深刻な被害を発生させている。					
対 象	市猟友会及び地域住民					
目 的	有害鳥獣被害の軽減を図り、農家の営農意欲を高め農地の保全に繋げる					
概 要	農林産物等への鳥獣被害防止のため、美濃加茂市猟友会へ追い払いパトロールや、罟檻、ICT技術等を活用した有害鳥獣捕獲対策業務を委託。 また地域住民による有害鳥獣被害対策（電柵設置、追い払い、里山整備）を実施した経費の一部を補助する。 最近の有害鳥獣ではイノシシ、サルやアライグマ等の外来生物の被害が増加しているため鳥獣対策が急務である。 個体数調整のための鳥獣捕獲が増加することにより、駆除を委託している猟友会員へ捕獲に必要な罟檻の購入費用増加等、会員の負担軽減対策、また地域でのネット柵設置の原材料支給などを行い、地域全体で鳥獣被害対策の推進を図る。					
事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06	
	予算額	26,289	23,105	22,742	23,133	25,549
	決算額	19,954	18,100	20,559	22,474	25,549
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		2,000 / 3,000				

アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	有害鳥獣被害防除のべ地域団体（団体） ・ネット柵設置 ・追い払い、整備	目標値	7	8	9	9	10
		実績値	14	15	19	22	23

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	有害鳥獣被害額（千円）	目標値	28,000	25,000	20,000	19,000	18,000
		実績値	22,000	20,100	19,920	19,900	19,000



実 績	実 績	・鳥獣捕獲頭数 イノシシ126頭、ニホンザル5頭、ニホンジカ13頭、アライグマ30頭、ハクビシン46頭、カラス121羽、ムクドリ40羽、ヒヨドリ2羽 ・鳥獣被害防止対策補助金交付実績 電気又は防護柵設置 22件 追い払い機材等購入 1件 里山林整備 8件 有害鳥獣捕獲に伴う免許取得 4件
	効 果	猟友会と協力し継続的な有害鳥獣捕獲を実施し、被害防止に一定の効果が見られた。 地域住民によるネット柵の設置や住みかとなる荒れた里山の整備の実施により住宅や農地に有害鳥獣が寄り付きにくくなることで人と鳥獣のすみわけが進んだ。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	効果的・効率的なネット柵設置ができるよう地域住民や関係者と打ち合わせや働きかけを行うことで地域団体を細やかに支援しことができた。ネット柵設置に合わせて隣接する鳥獣の住みかとなる里山を整備できるよう、地域団体に支援を行った。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	捕獲数が減少している中、被害額も減少したことから、緩衝地帯となる里山の整備やネット柵等の防除効果により有害鳥獣が農作物に被害を及ぼす機会が低下したことや、猟友会による効果的な捕獲・見回りも有害鳥獣を農地に近づけないことにつながったと考えられる。
	実績からR07年度の 事業の方向性	引き続き人と有害鳥獣のすみわけを進めるための地域住民による里山整備やネット柵等の設置を支援する。また、継続的な有害鳥獣捕獲が実施できるよう猟友会と連携をし、潜在的な猟友会会員である免許取得希望者への支援を継続することで農家の営農意欲の向上を目指す。

会計区分		01	一般会計		令和 6 年度 事業評価書				事業主体		02200000	産業振興部 農林課	
大事業	D1	6つのまちづくり宣言	産業振興	款項目	05	農林業費		02	林業費		01	林業振興費	
		目指す姿	活力と"豊かさ"あふれるまち！	K P I	1人当たりの市内総生産額 産業・観光振興に積極的に取り組んでいると感じる人の割合						目標値	4,100千円 50.0%	
中事業	03	主要な取り組み	まもる農業、残す里山										
小事業	02	里山活用事業			目標年度	令和6年度							



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	荒廃した里山は有害鳥獣の住処となり、付近の農作物への被害が増加している。また、それに伴って耕作放棄地が増加するなどの悪循環にも陥っている。そのため市では放置竹林の伐採や破碎、植樹などの里山整備を実施している。整備された里山には魅力的な資源や空間があるため、里山の有効活用が求められている。				
	対 象	美濃加茂市内の里山林				
	目 的	森林整備により本来の里山を取り戻す、さまざまな里山再生事業を行い地域産業活性のモデル地区とする				
	概 要	「里山千年構想」に基いた「里山千年基本計画」の実施に向け、「里山整備」「資源活用」「里山活用」を柱に里山再生を実施する。里山整備後の森林空間活用や地域連携、地域住民による維持管理意識付けに併せ、モデル地区として発信する。整備後の市内全体の里山林をフィールドとして企業との連携を通じた里山整備を推進するため「地域貢献の整備」と「社員の健康」を合わせた事業計画を策定し企業への働きかけを図る。森林経営計画策定等を実施することで、里山にある資源や空間を有効活用し持続可能な里山整備の推進をめざす。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	23,839	26,979	16,575	15,515	18,138
		決算額	22,145	23,890	14,534	12,984
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		4,800 / 0				

実 績	実 績	・未整備人工林活用委託業務の実施 ・里山整備講座の実施 ・アベマキ学校机プロジェクトの実施 ・木育スタート事業の実施 ・里山千年構想推進補助金 新購入 23件 里山資源活用団体 2件
	効 果	国の森林環境譲与税や県の補助金を活用し、広葉樹の植林による新たな里山利用の実証、放置間伐材等の薪利用、新生児への木の器プレゼントによる里山資源の活用や木製品への触れ合いを実施し、千年先まで持続可能な里山の推進を進めることができた。



アウト プ ット	活 動 指 標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	里山整備講座の参加者（人/年）	目標値 140	150	150	80	80
		実績値 36	66	155	50	65
アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	里山整備ボランティア活動のべ整備面積（ha）	目標値 0.9	1.2	1.5	1.6	1.7
		実績値 0.9	1.2	1.5	1.6	1.7

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	数値的には未達成だったが、昨年度よりも参加人数は増加した。参加募集が実施日と近かったことや、まったく里山に関心のない方への情報の到達には課題があった。ただし、これまでの里山整備講座と趣向を変え、整備本体だけでなく整備に伴う丸太の搬出や製材、木製品に関する講座など、里山関係人口増加に繋がる講座を実施したことで、女性や10代から70代まで幅広い年齢層が参加し、あらたな関係人口の掘り起こしに一定程度寄与できた。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	特に整備後の里山利活用が進んでいる地区では、里山整備を地域全体で行える体制が整い、その利活用範囲を広げていこうと補助や薪の売り上げを原資に活動を継続するとともに整備面積を拡大している。
	実績からR07年度の 事業の方向性	引き続き各種事業を継続しながら、新たな利活用を模索することで里山にある資源や空間を有効活用して地域の持続可能な発展に繋げる。R7年度は里山整備講座の参加者増のために、講座回数を増やす。また、HP等で周知をすることで里山に関心のない層の参加も狙っていく。R7年度に策定された第二次里山千年基本計画では、整備後の管理や竹の活用、多様な担い手の育成といった課題にしっかり向き合いながら、地域の中で無理なく続けられる里山づくりを目指す。企業や若い世代との連携も視野に入れ、日々の暮らしの中で活かされる里山のあり方を大切にしている。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	02200000	産業振興部 農林課		
大事業	D1	6つのまちづくり宣言	産業振興	款項目	05	農林業費	02	林業費		01	林業振興費
		目指す姿	活力と”豊かさ”あふれるまち！	K P I	1人当たりの市内総生産額 産業・観光振興に積極的に取り組んでいると感じる人の割合				目標値	4,100千円 50.0%	
中事業	03	主要な取り組み	まもる農業、残す里山								
小事業	03	里山再生プロジェクト事業（定住）		目標年度	令和6年度						



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	圏域内の荒廃した里山は有害鳥獣の住処となり、付近の農作物への被害が増加している。また、それに伴って耕作放棄地が増加するなどの悪循環にも陥っている。美濃加茂市では平成27年度から近隣自治体や地域住民と連携し、放置竹林の伐採や破碎、植樹などの里山整備を実施している。これらの整備が継続されることで圏域内の有害鳥獣被害額（主な原因のイノシシによる）が平成26年度より55%減少しているが、未だ令和元年度の被害額が30,000千円以上と高額であるため、今後も引き続き計画的な整備と地域住民による維持管理が必要である。				
	対 象	圏域住民、圏域内の里山				
	目 的	「圏域住民（子どもから大人まで）」が当たり前のように圏域内の里山の整備・活用を持続的に実施される。 圏域内の里山が持続的に整備され、有害鳥獣被害が減少する。				
	概 要	有害鳥獣被害の原因である里山の荒廃に対して、各市町村で実施している森林環境税による里山林整備の補完的な事業を中心として、計画的な里山整備をする。地域住民による里山の維持管理を進めるとともに、里山が再び荒廃しないよう、一過性ではなく、自立（持続的）した活動にする必要があるため、里山の有効活用の取り組みや研究を進めていく。また、これらの活動にさまざまな人たちが関わることで、それぞれの「生きがい」や里山への「愛着」を生み出し、持続的な活動を行う。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
		予算額	20,000	25,000	25,000	25,000
		決算額	19,910	24,999	24,999	24,999
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		320 / 0				

実 績	実 績	里山再生整備事業として、美濃加茂市4.989ha、坂祝町1.025ha、富加0.715ha、川辺町2.929ha、七宗町1.014haの計10.671haの整備計画を策定。可茂森林組合と契約を締結し、計画通り実施した。令和5年度の有害鳥獣被害額について、美濃加茂市19,000千円、坂祝町202千円、富加241千円、川辺町1,119千円、七宗町5,235千円の合計25,797千円となった。
	効 果	令和6年度の地域住民による整備団体数は、23団体となり、令和5年度の24団体と比較して1団体減少した。減少した団体は2団体あり、令和5年度に単年のみ活動するものであった。増加した団体が1団体あるが、今後も継続して整備することが見込まれる団体であることから、総合的に効果があったと考えられる。



アウト プ ット	活 動 指 標 （単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	圏域内整備のべ面積（ha） <伐採及び破碎処理>	目標値	25	30	35	60	70
		実績値	30	39	50	60	70
アウト カ ム	K P I （単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	地域住民による整備団体数	目標値	20	20	20	20	21
		実績値	19	19	19	24	23

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	重機借上げ等を連携市町で共有することで費用負担が軽減された。また、本事業の根幹となる森林環境税の里山林整備（バッファゾーン整備等）に連携市町が積極的に取り組んできた結果、昨年度の整備面積に対し約10ha増加した。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	森林環境税の対象外である竹の破碎（処分）等を本事業で補うことによって、事後の整備が刈払機等で容易に行えるようになった。また、継続して本事業を行うことで、地域住民は関心を持ち、継続的に整備する地域住民による団体数は23団体となった。
	実績からR07年度の 事業の方向性	森林環境税の里山林整備が拡大して進む中で、事後の整備が地域住民等によって容易に行えるよう、竹破碎の実施箇所については地域性を鑑みて選定する。また、有害鳥獣被害の軽減のためには一体的かつ継続した里山整備が必要と考えるため、引き続き本事業によって整備を行っていく。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	02200000	産業振興部 農林課	
大事業	D1	6つのまちづくり宣言	産業振興	款項目	05	農林業費	01	農業費	03	農業振興費
		目指す姿	活力と"豊かさ"あふれるまち！	K P I	1人当たりの市内総生産額 産業・観光振興に積極的に取り組んでいると感じる人の割合				目標値	4,100千円 50.0%
中事業	03	主要な取り組み	まもる農業、残す里山							
小事業	04	ふるさと農産物育成事業		目標年度	令和6年度					



イン  
プ  
ット

事業実施の 背景にある課題	農業人口が減少する中、農業者には安定した経営が不可欠である。しかし、農産物の販路が少ない場合は災害等により突如として販路を失い、経営難に陥るリスクがある。そのため、販路を確保しリスクを分散させる必要がある。また、市の特産品としての農産物は、美濃加茂市を認知してもらう機会として求められている。					
対 象	特産農産物の生産者					
目 的	親苗代の一部補助、里山と共存した農業の研究を行い、農業者の負担軽減や販路拡大により経営の安定を図るとともに特産品の安定供給を行い産地の振興を図る					
概 要	産地としての振興を図るため、国内外における販売促進活動等を実施する。また里山と共存した農業を研究し持続可能で高付加価値の農作物の推進を図る。					
事 業 費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	4,792	3,818	3,018	1,218	1,221
	決算額	3,201	2,510	753	1,150	758
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		560 / 0				



実 績	実 績	堂上蜂屋柿関連負担金 500千円 山之上の梨関連補助金 100千円 ふるさと納税返礼品登録 タンドールが制作した梨ゼリー
	効 果	市の特産品としての農産物をPRすることで、美濃加茂市を認知してもらうことができた。



アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	調査及び生産者と協議（回）	目標値			2	2	2
		実績値			4	4	4



アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	市のブランドとなる農産物の発掘（品）	目標値			1	1	1
		実績値			2	1	1

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	生産者にふるさと納税の返礼品として登録してもらえるよう4回の協議を行った。生産者との協議を重ねることで登録数も増加すると考えられる。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	調査や協議の結果、ランドールが制作した梨ゼリーをふるさと納税の返礼品として登録することができた。
	実績からR07年度 の事業の方向性	令和7年度も引き続き、認定農業者に農産物をふるさと納税の返礼品に登録してもらうよう協議を進める。返礼品に登録することで、全国の人の目に市の農産物が触れ、販路の拡大につながっていく。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	02200000	産業振興部 農林課		
大事業	D1	6つのまちづくり宣言	産業振興	款項目	05	農林業費	01	農業費		05	自給力向上推進費
		目指す姿	活力と”豊かさ”あふれるまち！	K P I	1人当たりの市内総生産額 産業・観光振興に積極的に取り組んでいると感じる人の割合				目標値	4,100千円 50.0%	
中事業	03	主要な取り組み	まもる農業、残す里山								
小事業	05	水田農業構造改革市町村推進事業		目標年度	令和6年度						



イン  
プ  
ット

事業実施の 背景にある課題	近年、食料自給率の低下と共にめん類やパンなど、米以外の主食が増えて、米を食べる量が減ってきている実状がある。米が余ると農家が売れる時の米の値段が下がりがずぎ、農家の収入が減ってしまう恐れがある。 また、生物による水稻被害が問題となっており、被害を軽減する必要がある。					
対 象	水田農業者					
目 的	一定規模以上の転作を行った対象者に交付金を交付し、水稻の需給調整と水田活用による他作物への転換を図り食料自給率の向上を目指すとともに、水稻被害の防除の推進を図る					
概 要	経営所得安定対策事業による米の需給調整の円滑な推進を行い、稲作及び水田を活用した他の作物への転換を組み合わせた生産性の高い水田経営を図り食料自給率の向上を推進する。 近年水稻被害の課題となっているジャンボタニシの駆除等を実施し被害の軽減を図る。 また、各地区における集落座談会等の開催及び営農促進、需給調整の推進を農事改良組合に委託する。					
事 業 費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	11,452	10,587	10,609	10,246	9,893
	決算額	10,030	10,106	9,487	9,390	8,827
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		650 /				50



実 績	実 績	集積利用交付金対象作物作付面積 8件 682,147㎡ ジャンボタニシ薬剤購入数 116個 防除協力人数 50人 ジャンボタニシパトロール駆除作業委託 639千円 各地区における米の需要調整及び転作の 広報活動件数 2回
	効 果	転作を進めたことで、水稻の需給調整を行うことができた。



アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	各地区における米の需要調整および転作の広報活動件数（回）	目標値			2	2	2
		実績値			2	2	2



アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	全体転作面積（ha）累計 休耕や農業用施設などは除く 市内農家の出作面積を含む	目標値			118.5	119	119.5
		実績値			100	118	118

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	営農計画書の提出時及び計画変更の確認時の2回、農業者に対して広報活動を行うことができた。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	転作に関する広報活動を行ったことで、全体の転作面積は増えてきていると考えられる。目標値に届かなかった理由として、農業者に転作可能な地理的条件が合う土地が少なかったことや転作による経済的なリスクがあったことが考えられる。また、転作するところが増えた反面、水稻に戻すところもあった。
	実績からR07年度の 事業の方向性	引き続き転作等を進めることによって、主食用米と転作作物との受給調整を行い、農業者の経営の安定を図っていく。 農産物に関するデータを整理することで当事業の推進につなげる。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	02200000	産業振興部 農林課	
大 事 業	D1	6つのまちづくり宣言	産業振興	款項目	05	農林業費	02	林業費	01	林業振興費
		目指す姿	活力と”豊かさ”あふれるまち！	K P I	1人当たりの市内総生産額 産業・観光振興に積極的に取り組んでいると感じる人の割合				目標値	4,100千円 50.0%
中事業	03	主要な取り組み	まもる農業、残す里山							
小事業	06	里山整備事業		目標年度	令和6年度					



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	適切に管理されない森林が増加しているため、水源のかん養、山地災害の防止など森林の有する公益的機能の低下が危惧されている。また、荒れた里山は有害鳥獣の住処となり、付近の農作物への被害が増加してしまう恐れがある。				
	対 象	市内の一団の民有林				
	目 的	森林を計画的に間伐することで森林の公益的機能（山地災害、水源涵養など）確保に努める。 森林整備を進めることで有害鳥獣被害の軽減を図る。				
	概 要	地域住民の森林に対する要請も、鳥獣を含めた生態系の保全、地球温暖化の防止など、広範に多様化かつ高度化しつつあることから、市では「里山千年構想」を策定し関係機関及び企業との連携を推進している。 ・里山整備を効率的に実施するため、施業の集約化を推進する。 ・岐阜県森林環境税を活用した里山林整備の推進、国の森林環境譲与税の有効的な活用 ・広葉樹を含めた森林経営計画を策定し、持続可能な里山整備を行う。 ・企業との連携整備、森林経営計画策定による持続可能な森林管理を行う。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	76,103	63,404	69,227	25,776	13,150
	決算額	72,651	58,022	20,803	7,599	12,479
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	5,000 / 0				



実 績	実 績	・自伐林家型森林整備補助事業の実施 1件 ・森林整備地域活動支援事業の実施 1件 ・林地台帳システム保守の実施 ・各種協会等負担金の支払い
	効 果	里山整備のための基礎調査を実施し、今後の里山整備に向けた準備を着実に進めることができた。 基礎調査が行われた里山を中心に、森林組合を中心に整備が実施された。



アウト プ ット	活 動 指 標 (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	里山整備のべ面積 (ha)	目 標 値	250	300	340	360	400
		実 績 値	251	302	397	461	542



アウト カム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	有害鳥獣被害額(千円)	目標値	28,000	25,000	20,000	19,000	18,000
		実績値	22,000	20,000	19,920	19,900	19,000

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	基礎調査を基にした住民の意向や地域からの要望に応じ各種補助事業を利用しながら確実な里山整備を実施することができた。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	目標値18,000千円に対して、実績値が19,000千円で、達成率94.73%であったが、前年度比マイナス900千円であったため、鳥獣被害額は減少はしている。 基礎調査をもとに長期間整備が行われなかった地域まで里山整備エリアが拡大し、有害鳥獣捕獲事業等他の事業を組み合わせることで有害鳥獣被害額は減少した。
	実績からR07年度 の事業の方向性	鳥獣被害額は目標には届かなかったものの、前年度比で減少しており、一定の効果がみられる。今後も森林整備とあわせて生息環境の管理や捕獲対策に取り組みながら、地域や企業との連携を進め、被害の未然防止に努めていくことが重要である。環境保全林整備事業や里山林整備事業を継続し、被害のさらなる減少を目指していく。